

## 2021年を迎えて



早稲田大学  
基幹理工学部情報通信学科 教授  
一般社団法人日本 ITU 協会  
出版・編集委員会 委員長

かめやま わたる  
亀山 渉

新年、明けましておめでとうございます。

出版・編集委員会を代表して、会員の皆様に謹んで新年のお喜びを申し上げます。本年も、『ITUジャーナル』と『New Breeze』の更なる発展に尽力して参りたいと思います。

2020年はCOVID-19、いわゆる新型コロナウイルスに翻弄される一年となりました。私は、昨年4月の緊急事態宣言後から在宅勤務をしておりましたが、5月末の緊急事態解除宣言からは基本的に職場に出勤しております。現在は徐々に乗客が戻ってきているように感じますが、緊急事態解除宣言後の数か月間の行き帰りの電車は信じられない程に空いており、すっかり世界が変わってしまったのを実感しました。私の勤める大学でも基本的には遠隔での授業を引き続き実施しており、研究室の学生とのゼミも遠隔で実施しております。また、各種の会議や学会もほとんどが遠隔で行われるようになり、短期長期及び国内国外を問わず、出張が全く無い一年となりました。皆様方におかれましても、新しい生活様式及び勤務形態にご対応されるため、大変なご苦労とご努力をされたのではないかとお察しいたします。

このような状況下で多くの方々に使われるようになったのが、いわゆるビデオ会議システムです。昨年11月3日に日経トレンディと日経クロストrendが発表した「2020年ヒット商品ベスト30」では、「Zoom」が第4位にランキングされました。毎年発表されるこのランキングは大変興味深く、その年の世相をよく反映していると感じていますが、2020年のトップ10の商品を眺めると、半数以上は新型コロナウイルスの影響によると思われるものがランクインしているようです。どれほど沢山の方々が新型コロナウイルスによって生活を変えざるを得なかったのかを端的に示しているように思います。

ビデオ会議システムといえば、1990年にITU-T勧告として出版されたH.323 (Narrow-band visual telephone systems and terminal equipment) を真っ先に思い出します。皆様もご存知と思いますが、これは世界初のビデオ会議システムの国際標準であり、ISDNを対象としているものです。ITU-Tでは、その後、IPネットワークを対象としたH.323を1996年に出版しています。この最初の版のH.323のタイトルは「Visual telephone systems and equipment for local area networks which provide a non-guaranteed quality of service」であり、当時はグローバルIPネットワークが未発達であったことを伺わせます。しかし、1998年の改訂版では「Packet-based multimedia communications systems」とタイトルが変更されました。1990年代の後半から、急速にIPネットワークの全世界的な普及が始まったことを反映していると考えられ、以降、このタイトルで今日まで版を重ねています。皆様方の中にも、このH.323に準拠したビデオ会議システムをビジネスで利用されていらっしゃる方も多いのではないかと思います。

H.323準拠の端末やシステムはハードウェアやソフトウェアが複数のベンダから提供されており、今日では比較的簡単に導入及び利用ができるようになりました。しかしながら、コロナ禍では何故かH.323はあまり使われず、Zoom、WebEX、Teams等が広く一般に使われているようです。もちろん、これらのツールにもH.323互換モードは用意されていますが、ほとんどの方はH.323準拠端末で接続していらっしゃると思われまいます。また、これらのツール間の相互接続を可能にするようなシステムもありますが、まだ広く一般に利用されてはいないようです。そのような訳で、互換性が考慮されてはいるものの、結局、会議ごとにこれらを使い分けるのが一番簡単なため、H.323はあまり使われなんでしょう。かく言う私も、会議ごとに、求めに応じて別々のツールを使用しています。用は足りているのでこれでいいのかも知れませんが、なんとなく釈然としないものを感じているのは私だけでしょうか。

結びといたしまして、会員の皆様のご多幸とご健勝、そして世界的にまだまだ厳しい状況が続いていますが、一刻も早い新型コロナウイルス感染症の収束を祈念いたします。本年もITUジャーナルをどうぞよろしくお願いたします。